

令和3年度 EPO九州業務一覧

1 基本業務（一部ESDセンター業務を併用）

業務項目	主な取組
①横断的な情報の収集・発信 基本業務仕様書 ①②③ ESDセンター仕様書 ①③	地域循環共生圏ポータル機能の強化 地域の持続可能なせいに寄与するコンテンツ創出 脱炭素社会推進に向けた情報、ツールの発信 過年度連携団体情報の掲載 低関心層へ間接的、直接的アプローチ 脱炭素教育、気候変動教育に関するツール、催事等のイベントの情報発信 地域ぐるみのESD活動モデル事例の収集を行い、広く地域に発信する。
②SDGs・ESDコンシェルジュ機能の強化 基本業務仕様書 ④ ESDセンター仕様書 ②④	ローカルSDGs推進に関するマッチング事例の創出 相談案件の蓄積と支援レポートの掲載 対応における外部アクターとの連携 ESD実践者の課題を把握し、適切な支援を提供する。 波及効果のある案件については、発信コンテンツとして取りまとめ、地域のESD推進を図る。
③EPOネットワークの活用 仕様書内容⑤⑥	GEOC、地方EPOと連携したバリューの創出 全国EPO連絡会地方開催を九州・沖縄ブロックにて開催を担い、全国との連携を強化する。 開催予定地 沖縄県内

2 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

業務項目	主な取組
①地域循環共生圏プラットフォームの環境整備支援等業務 仕様書内容①②③④⑤⑥	九州地方における地域循環共生圏の創造（構築・推進）に向け、プラットフォーム活動団体（PF活動団体）と連携し、モデル活動を展開。 業務の実施に当たっては、九州地方環境事務所地域脱炭素創生室、外部組織とともに、専門的知見を得ながら取り組みを推進する。 過年度ローカルSDGs推進に取り組んだ活動団体の、その後の進捗を把握し、オンラインヒアリングを実施する
②森里川海生態系ネットワーク形成会合 仕様書内容⑦	OECDの保護推進にかかわる地域において、ステークホルダーの連結を促進する会合を開催する
③地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業 仕様書内容⑧	地域循環共生圏構築に向け、地域金融機関や経済団体等のパートナーシップを形成する。

3 九州ESDセンター運営業務

業務項目	主な取組
①ESD学び合いプロジェクトの推進 仕様書内容⑤⑧	地域ESD活動に関する地域内外のネットワークを促進し、成果の汎用性を高める。 ESDに関する多様なステークホルダーが参集し、課題解決に向けたネットワーキングを加速させる機会を創出する場としてフォーラムを開催する。
②地域ぐるみのESD活動モデル事例形成支援 仕様書内容⑥	地域で行われている、課題解決に資する人材育成活動を支援し、計画に基づいた環境整備を行う。
③地域脱炭素に資する気候変動教育意見交換会の開催 仕様書内容⑦	脱炭素実現に関わるアクターと協働し、活動の活性化に資する意見交換会を開催する。

1 ①横断的な情報の収集・発信

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ●ウェブサイトにSDGsコンテンツページを新設し、EPO九州がローカルSDGs(地域循環共生圏)の取組推進に関する相談対応や助言等を実施していることを対外的にアピールするとともに、同取組推進に資する情報を一元的に掲載・発信することで、地域におけるローカルSDGs実現に向けた取組を加速化させる。 ●地域ぐるみのESDを推進する、多様なESD実践主体が連携、協働する契機となる情報の収集と発信を行う。 					
	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #FFD700;"> 収集・発信する情報 <ul style="list-style-type: none"> ・ローカルSDGsモデルケースとなる過年度支援・連携団体情報 ・脱炭素ツール、助成金情報 ・環境保全イベントの開催情報 ・その他脱炭素、ローカルSDGs推進情報 ・低関心層のマインドを喚起する事例 </td> <td style="background-color: #0070C0; color: white;"> 【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・EPO/センター各ウェブサイト、SNSの閲覧数 ・情報発信、収集にかかる案件数 ・発信によるパートナー獲得数 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #FFD700;"> 独自のコンテンツ創出 <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs・ESD実践に資する教材、教育施策の情報収集 ・地域ESD活動モデルの取材とコンテンツ作成 ・Web、SNSを通じた収集情報の効果的な提示 </td> <td style="background-color: #0070C0; color: white;"> 【成果獲得に向けた工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動で得られたネットワークやパートナーから、SDGs達成、ESD推進、脱炭素社会に向けた取り組みを、コンテンツとして幅広く収集する。 ・具体的な相談対応から得られたマッチング事例や、波及した活動を閲覧者に向けて示し、活動者自身のヒントとして提案する。 ・地域ぐるみのESD推進に携わる主体に取って有用な情報を優先的に収集する。 ・収集した情報を効率的に発信し、相談対応へのフィードバックを行う。 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #FFD700;">業務内容</td> <td> 脱炭素、気候変動教育情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素先行地域、SDGs未来都市等の教育施策収集 ・上記教育に特化した教材、学習ツールの収集と提案 ・地域循環共生圏ポータル機能の強化 ・刊行物の有効活用によるEPO機能の提案 ・脱炭素、環境保全アクターとの連携創出 </td> </tr> </table>	収集・発信する情報 <ul style="list-style-type: none"> ・ローカルSDGsモデルケースとなる過年度支援・連携団体情報 ・脱炭素ツール、助成金情報 ・環境保全イベントの開催情報 ・その他脱炭素、ローカルSDGs推進情報 ・低関心層のマインドを喚起する事例 	【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・EPO/センター各ウェブサイト、SNSの閲覧数 ・情報発信、収集にかかる案件数 ・発信によるパートナー獲得数 	独自のコンテンツ創出 <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs・ESD実践に資する教材、教育施策の情報収集 ・地域ESD活動モデルの取材とコンテンツ作成 ・Web、SNSを通じた収集情報の効果的な提示 	【成果獲得に向けた工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動で得られたネットワークやパートナーから、SDGs達成、ESD推進、脱炭素社会に向けた取り組みを、コンテンツとして幅広く収集する。 ・具体的な相談対応から得られたマッチング事例や、波及した活動を閲覧者に向けて示し、活動者自身のヒントとして提案する。 ・地域ぐるみのESD推進に携わる主体に取って有用な情報を優先的に収集する。 ・収集した情報を効率的に発信し、相談対応へのフィードバックを行う。 	業務内容
収集・発信する情報 <ul style="list-style-type: none"> ・ローカルSDGsモデルケースとなる過年度支援・連携団体情報 ・脱炭素ツール、助成金情報 ・環境保全イベントの開催情報 ・その他脱炭素、ローカルSDGs推進情報 ・低関心層のマインドを喚起する事例 	【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・EPO/センター各ウェブサイト、SNSの閲覧数 ・情報発信、収集にかかる案件数 ・発信によるパートナー獲得数 					
独自のコンテンツ創出 <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs・ESD実践に資する教材、教育施策の情報収集 ・地域ESD活動モデルの取材とコンテンツ作成 ・Web、SNSを通じた収集情報の効果的な提示 	【成果獲得に向けた工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動で得られたネットワークやパートナーから、SDGs達成、ESD推進、脱炭素社会に向けた取り組みを、コンテンツとして幅広く収集する。 ・具体的な相談対応から得られたマッチング事例や、波及した活動を閲覧者に向けて示し、活動者自身のヒントとして提案する。 ・地域ぐるみのESD推進に携わる主体に取って有用な情報を優先的に収集する。 ・収集した情報を効率的に発信し、相談対応へのフィードバックを行う。 					
業務内容	脱炭素、気候変動教育情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素先行地域、SDGs未来都市等の教育施策収集 ・上記教育に特化した教材、学習ツールの収集と提案 ・地域循環共生圏ポータル機能の強化 ・刊行物の有効活用によるEPO機能の提案 ・脱炭素、環境保全アクターとの連携創出 					

1 ②SDGs・ESDコンシェルジュ機能の強化

業務目標

●SDGs/ESDの具体的な取り組み方に悩む主体や取組上の課題を抱えている主体からの相談に対して基礎的な知識のインプット、活用できる支援ツールや資料の提供、人材の紹介など一般的な助言をにより相談者の課題を解消し、地域脱炭素やローカルSDGs達成に向けて取り組むアクターを増加させる。

コンシェルジュ (conciierge) : 顧客の要望に応え、サービス・情報を提供・提案する人材・組織。

業務内容

【的確な相談対応の拡充】

- 活動のステップ、多様な主体ニーズに応じた相談対応(支援と情報の提供)
- 主体間のマッチング事例蓄積、相談カルテの活用による対応案件の分析(脱炭素社会づくりに関連する取組の把握)
- 幅広い情報収集を基盤とした環境活動ツールのストックと提示
- 環境カウンセラー、環境活動指導者、温暖化防止センターなど、地域アクターと連携したコンサルテーション事例の創出
- 九州・沖縄地域の特性に応じた地域ESD推進の課題、また支援ニーズを定期的に把握し支援活動に反映する
- 支援を行った事例を、新たな優良事例として情報を整理し、新たな活用価値を創出する
- 解決案件へのフォローアップ実施

【成果指標】

- SDGsに関する相談対応件数
- 相談対応から波及した取組事例
- 得られたマッチング事例数
- ESDに関する相談対応件数
- ESD相談、支援から波及した取組事例
- 得られたマッチング事例数

【成果獲得に向けた工夫】

- 多様な主体から寄せられる相談をとおして、各主体のニーズを把握する。
- 各主体に新たなネットワークの提案やネットワーキング志向を引き出し、対話の場や情報交換の機会を創出する
- 案件蓄積、分析による機能強化を行う。
- ニーズに対応した、具体性があり適切な助言、提案を実施する。

1 ③EPOネットワークの活用

業務目標

●GEOC・各地方EPOとの連携を一層強化・発展させることで、全国EPOネットワークの情報や事例をもとに地域の取組や課題に対する参考情報を獲得し、ローカルSDGs達成に向けた支援活動の知見を深めるなど、EPO間の相互参照と活用を行う。
●九州・沖縄にて地方連絡会を開催(ホスト)し、全国ネットワークを拡充させる。開催にあたっては全国のEPO担当者に地域課題の現状や取組について知見共有する場を設けるなどの工夫をする。

【地方EPO間連携】

- 全国EPO連絡会を九州沖縄地域で開催し、取り組みの発信と新たな連携を獲得
- 地方EPO、GEOC連携によって、持続可能な地域づくりに向けた知見を獲得。
- 得られた知見に基づき、地域特性を基盤とした活動へフィードバックする。



【成果指標】

- EPOネットワークにより新たに獲得された連携や課題解決事例
- 連絡会の地方開催に関するアンケート結果

【成果獲得に向けた工夫】

- 地方環境事務所、地方EPOの連携を強化する連絡会を九州沖縄開催し、地域性に基づいたローカルSDGs達成の取り組みについて広く発信する。
- 地方間のEPO連携をリソースとして有効活用し、各事業に反映を行う。

業務内容

2 ①地域循環共生圏プラットフォームの環境整備支援等業務

業務目標

●地域プラットフォーム活動団体が取組む地域の資源を活用し課題解決に向けた環境整備(構想策定・事業計画策定・ステークホルダーのネットワーク形成)に対し、専門家等と連携し支援を行うことで、事業における成果創出を加速させる。支援にあたっては全国事務局とノウハウ共有し、九州・沖縄の活動団体ネットワークに資する、中間的なプラットフォームの形成を促進させる。

PF活動団体の概要

<p>田主丸未来創造会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業未利用資源(カラタチの枝)の利活用 環境価値の高い森林保全 ルーラルツーリズムの展開 <p>継続</p>	<p>株式会社アズマ</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギーの地産地消 地域電源を活用したEV車シェア 熱利用可能な分散型バイオマス発電 <p>新規</p>
<p>福岡筑後プラスチックループ推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> プラスチック廃棄物のリサイクルのしくみづくり 福岡県大木町を中心に周辺自治体とネットワーク プラスチック再生企業など事業者との連携 <p>継続</p>	<p>株式会社山都竹炭</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の課題に対応するための産業振興 伐採した竹の有効活用(竹粉など) 有機農業と地域循環共生圏のまちの創造 <p>新規</p>
<p>みやざきSDGsプラットフォーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮崎県内の主要大学、自治体、金融機関、マスコミなどが連携したプラットフォーム 高校生の活動促進に向けたプロジェクト推進 広域的な啓発取組(アワードの創設など) <p>継続</p>	<p>鹿島市ラムサール条約推進協議会</p> <p>一般社団法人MIT</p> <p>事業化</p>

業務内容(九州地方支援事務局)

<h3>九州ブロックのプラットフォーム形成</h3> <p>ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> 各PF団体に、今年度の取組内容、課題、今後の進め方を確認 オンラインツールを活用したヒアリングにより関係構築 環境整備支援の考え方を共有し、特に新規団体の活動に注視 <p>環境技術展示会での発信</p> <ul style="list-style-type: none"> エコテック展を活用し、プラットフォーム事業を周知。 中間報告団体(KICS)の場づくりと連携。 <p>ステークホルダーミーティング開催支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域課題をとおした各PFごとのテーマ設定 事前打合せのため現地訪問打合せ 5つのPFの状況に応じた開催支援 意見交換会をとおして、地域の関係づくりを加速 <p>中間共有会</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインによるテーマ別PF団体間の情報交換を促進し、ネットワーク形成 課題の共有や、活動展開におけるヒントなどを意見交換の場づくりをプロデュース PF個別の活動を丁寧に把握し、活動支援につなげる(金融機関との連携、行政の巻き込み方、市民参加など) 	<h3>全国プラットフォーム活動との連携</h3> <p>キックオフミーティングに向けた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表資料作成のブラッシュアップ支援、PFごとのとりとなる活動について事前相談 本番・全国事務局・地方事務所・EPOによる推進体制の強化 オンラインでのコミュニケーションタイムファシリテーター <p>成果報告会に向けた成果創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年間の取組をふまえて成果共有・創出に向けた個別相談会(オンライン)をPFごとに実施。 <p>卒業団体へのヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> GEOCと連携し、事業後の取組の進捗の把握についてヒアリングする。当初目標への対応状況や地域での「ありがたい未来像」や事業・取組の展開状況の把握。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> PF活動団体の成果物 PF活動団体が展開する活動関係者の広がり 事業化に向けた推進計画 <p>【成果に向けたポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点的に支援する団体を設定し、協働側面からの課題整理と助言を行う。
--	---



2 ②森里川海推進ネットワーク形成会合の開催支援

業務目標

●森里川海の連結性を確保するためには、民間等の取組により生物多様性の保全が図られている地域と国立公園等の保護制度により保護されている地域をネットワーク化し、保護区域の内外を問わないステークホルダーの連結性も確保していく必要がある。そのため、九州地方環境事務所において地域の自治体、企業、金融機関などを巻き込んだ情報交換会を開催し、これを支援する。

業務内容

情報交換会の開催支援

- ・地方事務所が企画調整する情報交換会等の開催運営補助
- ・開催地域についての情報提供、関係団体についての情報収集

【成果指標】

- ・会合の参加者数、所属先の多様性
- ・アンケートによる満足度
- ・OECM等についての参加者の認知向上

OECM等の政策情報の周知

- ・環境省自然部局が推進する生物多様性保全に関する「OECM」等について地域や経済主体の理解促進に向けた周知の機会をつくりネットワークにつなげる。

【成果獲得に向けた工夫】

- ・パートナー団体等との連携 本施策に賛同する事業者や団体について環境省においてネットワーク参加を呼び掛けており、先駆的な取組情報をもとに企画検討を行う。

実践的な保全活動に基づく意見交換

- ・地域の団体や企業が取組む保全活動等をふまえ、多様なパートナーシップによる連携事例などを掘り起こす。

OECMとは

- ・保護区域等に指定されていないが、生態系保全等の観点から重要な自然環境を有する企業有地や区域。

2 ③地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

業務目標

●地域循環共生圏構築に向け、地域金融機関や経済団体等のパートナーシップを形成する。昨年度実施した北九州地域と熊本地域での勉強会の枠組みを生かし、更なる連携強化を目指す。

業務内容

キックオフセミナーの開催

- ・北九州市西日本総合展示場 エコテクノ展にて事業者等を対象に開催。
- ・地域脱炭素社会における地域金融機関やESGの果たす役割についての講演、意見交換会の実施
- ・地域脱炭素創生室の取組も周知し、先行地域等の活動支援メニューについても紹介する。

【成果指標】

- ・3か年の取組をととした関係機関数
- ・セミナーアンケートによる満足度

意見交換の展開(2回)

- ・地域の金融機関等が環境・社会課題に対して事業支援を行う事例等について意見交換を行い、事業化支援団体などの取組を促進させる。

【成果獲得に向けた工夫】

- ・地域金融機関が脱炭素社会に向けて連携可能性の高い業種・業態の把握
- ・地域金融機関のESG投融資への意識醸成につながる伝え方の検討
- ・地域金融機関間の脱炭素・ESG金融文脈によるパートナーシップ形成

3 ESDセンター運営 ①ESD学び合いプロジェクトの推進

業務目標

- 一般的な公立中学校におけるSDGsの視点を取り入れたキャリア教育カリキュラムの構築
- 他教科の学習における汎用性のあるSDGsの活用カリキュラムの提案

業務内容

実践活動(SDGs授業の展開)

- ・学校現場のニーズをふまえ、中学生のSDGs理解促進と定着を目指した授業を行う。企画にあたっては、体験ゲーム等を活用し、専門講師によるプログラムを活用する。
- ・また年間をととした関係授業の資料を蓄積し、参照可能な状態で整理する。

【成果指標】

- ・SDGsを活用したキャリア教育のカリキュラム(3学年一貫展開)
- ・九州ESDセンターによるカリキュラム作成支援のノウハウ、役割プロセス
- ・学び合い参加者のアンケート結果

学び合いの実施(研修と意見交換)

- ・SDGsを活用した教育に取組む教職員向けの研修を連携する中学校全教員を対象に実施することで全般的な認識を高め、基盤形成を行う。
- ・また汎用的なカリキュラムの活用方法やツールとしての使い勝手を高めるため、全国のESD拠点等に呼びかけ意見交換を行う。

【成果に向けたポイント】

- ・汎用性のあるSDGsを活用したキャリア教育カリキュラムの提案
- ・学校と地域団体等の連携における留意点や課題整理
- ・教職員が活用しやすい保管方法、データ整理手法の検討

全国フォーラムとの連携

- ・2か年の取組をもとに、中学校でのSDGs×キャリアカリキュラムとして再構築し、活動成果として幅広く発信する。
- ・脱炭素社会形成に向けた教育への応用可能性についても検討する。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全年度進行・企画	関係者打ち合せ(4/6)	城南中学校職員研修(4/27) 産業美津子氏	23年生対象SDG特別授業(5/24) 神田みゆき氏	実践者の呼びかけ	ESD研修・意見交換会の開催	SDGs活用カリキュラム			全国フォーラムでの成果共有			

R4城南中学校 キャリア教育年間カリキュラム(案)

3年生 <探究する> テーマ:SDGsに貢献する生き方を模索しよう。
 ・企業のSDGsの取り組みやいろいろな職業の中にあるSDGsを調べ、その上で、自分のキャリアを通してSDGsにどう関わり、向き合っていくのかを考える。
 ・自分たちでテーマを設定し、これまでの学習で身につけた知識や経験を使いながら、物事を探求したり課題を解決していく力を身につける。

2年生 <体験する> テーマ:地域や社会にあるSDGsの取り組みを探そう。
 ・職業を通してSDGsへの貢献について学ぶ。
 ・(ナイストライを通して、)事業所や地域にあるSDGsの取り組みをさがす。
 ・勤務の大切さ、大変さ、やりがいなどを学び、将来働くことへの意欲を高める。
 ・修学旅行を通して、京都に数多くあるSDGsを探し、まとめる。

SDGsを自分事としてとらえ、職業や生き方の中でSDGsに貢献していくこととする意識を培う。

1年生 <知る・気づく> テーマ:社会の様々な問題に目を向け、自分との関わりについて考えてみよう。
 ・社会に目を向けさせ、様々な課題があることを学ぶ。
 ・SDGsの必要性と重要性に気づかせ、SDGsの基礎を学ぶ。
 ・自分の将来や働くことへの意識付けを行い、次年度のナイストライへつなげる。

SDGsの必要性やはたらく意義など、学んだり調べたりしたこと、体験を通して理解を深める。

R4年度	1学期	2学期	3学期
3年生	キャリアとSDGs(企業の取り組み) SDGs復習講座(ゲーム) 企業や職業中のSDGs	キャリアとSDGs(キャリアプラン作り) 職業調べ キャリアプラン作り(資格やSDGs)	キャリアとSDGs(生きる力の育成) 探究活動(8コースの班活動)
2年生	仕事の中のSDGs(職場体験)		持続可能な都市、京都から学ぶSDGs(修学旅行)
2年生	SDGs復習講座(ゲーム) Aパターン:キャリア/ナイストライを核とした活動 Bパターン:キャリア/企業説明会を核とした活動 Cパターン:キャリア/複数の企業を招いての講義(企業が求める人材とは)		進路とSDGs
1年生	生活・暮らしの課題探し(SDGsへの接続)	SDGsの基礎	自分の将来、生き方探し(働くことへの意識づけ/職場体験への接続)
1年生	【地域】身の周りの社会問題	【国際理解】世界の子ども達	【国際理解】SDGsへの接続 課題解決のための目標づくり
1年生		【SDGs入門】基礎講座	【SDGs入門】調べ学習(調べ・まとめ・発表)
1年生			【キャリア】はたらく理由 職業調べ 職業新聞 自分の将来 未来予想図

3 ②地域ぐるみのESD活動モデル事例形成支援及び、地域フォーラムの開催

業務目標

●地域ぐるみでESD活動に取り組む、又は取り組もうとしている地域のステークホルダーに対し、構想策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化に向けた環境整備支援を行い、モデル事例の創出を目指す。モデル事例形成に至るまでのプロセスや得られた知見・ノウハウ等をESD実践者に共有し、他の地域でのESD活動を促し、もって教育活動という側面から地域循環共生圏(ローカルSDGs)の実現に貢献する。

業務内容

1. アンケート・ヒアリングの実施

・地域ESD活動推進拠点、その他ESD重点活動団体へアンケート調査を実施し、同回答をもとモデル事例形成の可能性のある団体へヒアリングを実施する。

2. 支援計画の提案

・対象団体に対し、九州ESDセンターによる支援計画を提案し、下記のミーティング開催を始めた環境整備を行う対象として選定する。

3. ステークホルダーミーティング開催

・上記の支援対象団体が主催するミーティング開催支援を実施する。

4. 地域フォーラムの開催

・モデル事例をもとに知見を共有し

「地域ぐるみのESD」とは

・複雑化した地域課題解決に対し「持続可能な地域づくりにはどのような人材の育成が必要か」について、地域の多様なステークホルダーが協議しESDを推進する体制づくり

【成果指標】

・計画に基づいた支援のプロセスを記録、分析し、「地域ぐるみのESD活動」構築モデルへ反映する。

【成果に向けたポイント】

・モデル事例形成の観点から、支援対象の団体選定に向け、多角的に地域ESD活動の課題を把握、分析する。
・選定団体の活動と課題解決に対応した支援を提供し、団体による新たなネットワーク獲得を行う。

3 ESDセンター運営 ③地域脱炭素に資する気候変動教育意見交換会の開催

業務目標

●地域脱炭素社会実現に資する気候変動教育を行っているステークホルダー(例:温暖化防止活動推進センター、環境カウンセラー、地方自治体における環境教育指導者派遣制度等)の学校や企業等における活動の活性化に向けて、これらのステークホルダーが協働して気候変動教育活動を実施する体制の構築を支援する。

業務内容

【企画概要】

・一定の地域を設定し、温暖化防止活動推進センター、同推進員、環境カウンセラー等の取組や課題認識を共有する意見交換を行う。
・地域における人材登録制度や派遣等の支援制度の活用についても情報交換を行い、脱炭素社会の推進に向けた人材育成の在り方について課題整理する。
・実施時期:第3四半期を想定
・開催地域:各ステークホルダー団体の意向をふまえて設定する。
・各地訪問にあわせて各センターの近況をうかがうなど、日常的な関係づくりを行い、取り組みの発信支援などを行う。

【成果指標】

・開催アンケート結果
・各主体による取組情報の把握
・ブロック会議等へのフィードバック

【成果に向けたポイント】

・気候変動教育、脱炭素教育に関する情報提供を実施する。
・全国温暖化センターが実施するブロック会議に協力し、各県センターとのネットワークづくりも並行して行う。
・全国ESDセンターが展開する気候変動教育に関するプロジェクト検討プロセスをふまえて、情報連携を強化する。
・EPOやセンターが開催・関係するセミナー等の情報を積極的に提供する。

九州・沖縄地域の温暖化対策センター(11拠点)

センター	指定団体	備考
福岡県	一般財団法人 九州環境管理協会	幹事センター
佐賀県	NPO法人 温暖化防止ネット	
長崎県	一般社団法人 長崎交流センター	
長崎市	特定非営利活動法人 環境カウンセリング協会長崎	
佐世保市	一般社団法人 長崎環境まちづくり社中	
熊本県	NPO法人 SDGs Association 熊本	R4.4月より
熊本市	一般社団法人 熊本環境革新支援センター	
大分県	認定・指定特定非営利活動法人 地域環境ネットワーク	
宮崎県	公益財団法人 宮崎県環境科学協会	R4.4月より
鹿児島県	一般財団法人 鹿児島県環境技術協会	
沖縄県	一般財団法人 沖縄県公衆衛生協会	

4 外部資金業務

枠組み

●全国のEPOネットワークが外部の民間団体等と効果的に連携し、環境省事業であるEPO・ESDセンターの運営基盤をもとに、情報発信や体験の場づくりを展開する。

業務内容

地球環境基金との連携

・民間団体による環境保全活動を支援する基金事業の活用に向けて、助成金情報の提供(説明会の開催)や、申請に向けた助言等を行う。
・ユース環境活動ネットワークと連携し、高校生による環境保全活動や持続可能な社会づくりに向けた取組の発信支援を行う。

グリーンギフトプロジェクト(東京海上日動火災)

・保険会社による寄付プロジェクトとして、日本NPOセンターと全国のEPOが連携し、全国20地域で体験の場づくりを展開。
・企業とNPOをつなぐ橋渡しを行う。コロナ禍をふまえたプログラムの工夫や、関係団体のネットワークづくりについて側面支援を行う。

相談・依頼に基づく事業連携

・民間・自治体等からの企画プログラムの立案・運営等依頼について、積極的に対応する。

2022年 EPO九州・ESDセンタースケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営委員会	日程調整 業務計画案提出	委員会① 5/31							日程調整	委員会② 1/●		
基本業務	SDGs-ESDコンシリアティブ活動											
全国EPOネット	1/● XJRCカ		連絡会① 6/14(東京)		スタークホルダー開催支援 (SFP) 地方開催 企画調整		GEOC2の 伊谷合わせ	連絡会② 10/● (九州・沖縄)		連絡会③ 1/●(東京)		ニューズレター発行
共生圏PF	団体ヒアリング 5PF	共有会 5/17	情報交換会 6/7-8	コネク/展 ブース出展		作業部会① 9月	中間共有会 10月~11月		事業形成会議 12月	作業部会② 1月		成果共有会 3月上旬
森屋川島 ネットワーク会		情報収集	企画検討		ネットワーク 会合①		ネットワーク 会合②					
PS基礎強化		企画検討		地域ESG セミナー			情報交換会 ①		情報交換会 ②			
ESDセンター 学び合い プロジェクト	打合せ 4/9	職員研修 4/27	SDGs授業 5/24		SDGsが井ノ上 学び合い		SDGsが井ノ上 モデル化整理		全国フォーラム			
地域ぐるみESD モデル形成支援	企画検討	アンケート	ヒアリング	2団体 選定	地域ぐるみESD活動支援	スタークホルダーミーティングの開催 (2団体)			地域フォーラムの開催			
気候変動教育 意見交換	各府県緑化センター 挨拶回り			ブロック会議開 催支援			気候変動教育 意見交換			ブロック会議開 催支援		
地球環境基金		ユース企画相談			基金連絡会		助成金説明会開催支援					
Green Gift 九州・大 分・宮崎		体験イベント		体験イベント		プロジェクト 振り返り						